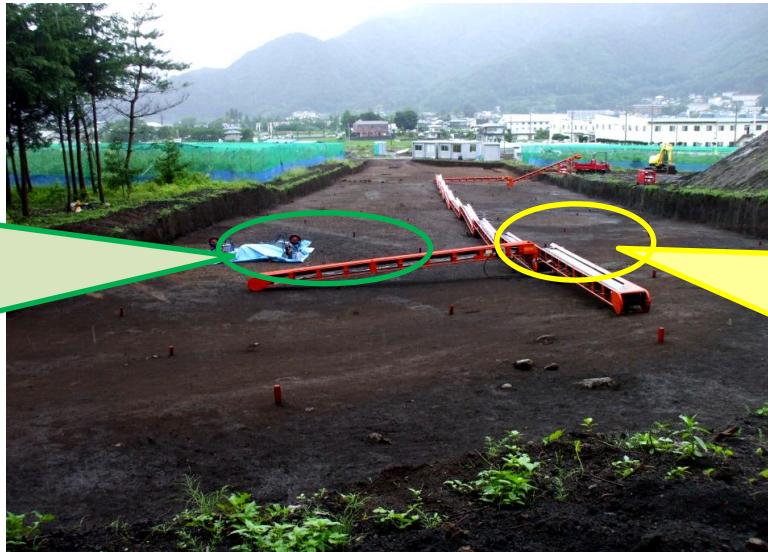


滝沢遺跡 発掘調査速報 1

6月から始まった今年の調査でも、平安時代の住居跡がたくさん見つかっています。



ここに見つかった住居跡の発掘の様子を紹介します☆
①～④を見てくださいね☆

こちらの住居跡と土器の写真は、⑤⑥を見てくださいね！



①遺構の確認



②住居はシャベルで根気よく。



③真ん中から外側に向かって掘るのが基本。



④1号住居と命名されました！



1号住居のカマド
真ん中の赤い土は、「焼土(しょうど)」と言います。

出土した土器を紹介します！

ここには、とてもステキな土器がかくれています。
壊れないように、守っているのです。



完形(完全な形)で出土した坏(つき)です。「甲斐型土器」という平安時代の甲斐国に特有の土器です。



このような土器が、ザクザク出てきています！



ここは、8号・9号住居。
2つの住居が重なっていることがわかりました。

黒い土を少しずつ削っていくと、茶色い土が出てきます。これは、住居の床なのだそうです。

墨書土器 (ぼくしよどき)

墨書土器とは…
墨で文字が書か
れた土器のこと

遺物の洗浄作業の様子

出土した土器を洗うのも調査の重要な仕事のひとつです。洗うと、土器に文字が書いてあることもはっきりと見えてきます。



土器に書かれる文字には、1文字だけのものも多く、意味がよくわからないものもあります。しかし、地名や人名などを意味するものも見られるため、遺跡の性格を位置づける上で重要な情報源です。



この土器には「東」という文字がわかります。とても達筆です。

「東」の文字の上にも、何か文字が書かれていたことがわかりますが、土器が欠けているため、残念ながら何の文字かわかりません。

多くの墨書土器は、このような状態で見つかります。

洗っただけではわからないので、接合(土器の復元)が楽しみです。



この土器にも、文字が書かれています。何という文字でしょうか？

